

暖かい陽の光が降り注ぎ、桜のつぼみも膨らみ始め、春の訪れを感じる今日、私たち登美ヶ丘高校第三十一期生は卒業の日を迎えました。

本日は私たちのためにこのような素晴らしい式を挙行していただき、ありがとうございます。また御多忙の中御出席下さいました保護者の皆様、卒業生一同心から御礼申し上げます。

思い返せば入学してから仲間と共に歩んできた三年間は本当にあつという間でした。クラスの仲間と過ごした何気ない日々も、今となってはかけがえのない時間に思えます。不安と希望で胸をいっぱいにしてこの体育館で列に並んだ三年前の入学式から今日までの日々は、私たちに多くの学びや思い出を与えてくれました。

一年生の新しいクラスで担任の先生から校章を受け取り、これから始まる未知の高校生活にドキドキしながら制服につけたことが、昨日のように思い出されます。また、校内ですれ違う先輩方の大きな背丈や大人っぽさに、いつか自分たちもこんな風になれるのだろうか、友達と楽しそうに笑い合うキラキラした先輩方に憧れを持ちました。そして一年生で最も印象に残っている学校行事、校外学習では、大阪万博公園でバーベキューをしたり、スワンボートに乗ったりと新たな仲間と距離がぐっと近くなりました。まったく新しい環境に不安になっていたのもつかの間で、中学校とは全く違う生活に一日一日がものすごい早さで巡っていきました。

そんな中で行われた体育大会や文化祭も慣れない学校生活のめまぐるしさに飲み込まれていき、駆け抜けるように終わっていきました。

二年生に進級し先輩が入学してくると、一年前に感じた先輩方への憧れを後輩たちにも感じてもらえるのかと、自らの成長と責任感に身が引き締まる思いがしました。

そんな気持ちの中迎えた二年生の行事といえば修学旅行の思い出に尽きます。今思い返してもあのときのわくわくした気持ちが鮮明によみがえります。高の原駅で先生方の暖かいお見送りに手を振って修学旅行は始まりました。バスと新幹線を乗り継ぎ富士川でのラフティングを私は体験しました。ぴちぴちのウェットスーツに着替えて陽気なガイドさんと一緒に激流を下り、悲鳴をあげ、遊園地では味わえないような自然の雄大さを体験することができました。また乗馬体験や富士山でのご来光に感動した友達もいました。これらはどれも今まで味わったことのない素敵な体験でした。

次の日東京には本当に夢の国があるんだと感激したデイズニーシーでは、目に映るもの全てがキラキラしていて、そのような場所と同じ時間を過ごせた仲間ともしっかり仲良くなれた気がしました。また、テレビでしか聞いたことがない駅名に心を躍らせたり、高いビルに囲まれた見慣れない都会の街中をキョロキョロしたり、迷路のような駅のホームにおびえながら怖々グループの仲間と電車に乗って歩いた東京観光は、見るもの全てが珍しく、色々なものを写真に収めました。

修学旅行に出発するまで、私たちは、座席など様々な決めごとを先生方の協力の下にしてきました。その準備の過程から最終日の帰りまで、今まで気づけなかった仲間の意外な一面や、みんなで一つのことを決める難しさなど、たくさんこのことをこの修学旅行で学びました。そして協力して仲間と意見を出し合ってきたことと、行き詰まったときに助けてくださった先生方のおかげでこの三日間はとても素晴らしいものになりました。

成長した気持ちを抱え、私たちは最高学年を迎えました。三年生になってピチピチビーチでの最後の校外学習、全てのクラスが熱狂した最後の体育大会、模擬店を成功させようとクラスで団結し、舞台発表で体育館が揺れるような熱気に包まれ大盛り上がりだった最後の文化祭と、なにかと「最後の」と言葉が目立つようになりました。私たちが安全に楽しめるように奮闘して走り回ってくださった先生方、代表して遅くまで準備をしたり、前に立って進行してくれた各行事の運営委員、生徒会執行部の皆さんのおかげで私たちは最高のかたちで最後の行事を楽しむことができました。本当にありがとうございます。そして振り返ってみると一年生の頃に比べ、私たちは大きく成長することができました。

一年生の頃は部活や成績、人間関係や進路など自分のことで精一杯でしたが、登美ヶ丘高校で三年間本当に多くのことを学んだ私たちは、自分のことと同じくらい周囲の人のことを大切にしようという気持ちが強くなりました。それはここで出会えた人々がそういう気持ちを持って私たちに接し、大切にしてくれたからだと思います。

この三年間を通して感じることは、私たちの幸せな高校生活はたくさんの方々の方々の支えがあってこそということです。教室や廊下で楽しい話や冗談を言ってくれる友達、何を相談しても優しくうなずいて自分のことのように考えてくれた友達、この休み時間がずっと続けばいいのにと思わず願ってしまうくらい居心地の良い時間を一緒に過ごしてくれた友達。私の周りには素晴らしい友達であふれていました。毎日の学校生活を一緒に送ってくれてありがとう。私と出会ってくれてありがとう。今まで楽しいときも辛いときも、時間を共にしてきた皆には感謝の気持ちでいっぱいです。そして部活動では真夏の焦げそうな暑い日も、手足がちぎれそうな寒い日も毎日一緒に家族のように長い時間を過ごし、ぶつかることもあったけれど、乗り越えて喜びを分かち合ったチームメイト。毎日お茶を作ってくれて、縁の下の力持ち

で私たちを支えてくれたマネージャーの皆さん。暑い日の試合中誰よりもたくさん褒めてくれて、冷たい飲み物とタオルで風を送って涼ませてくれたとき涙が出そうなくらいうれしかったです。皆のおかげで最後まで戦い抜くことができました。本当にありがとうございます。そして忙しい時間をさいて、技術、心を育ててくださった顧問の先生。たくさん迷惑をかけたがり困らせてたりしてしまいましたが、全力で私たちを我が子のように時に厳しく、時に優しく全員を愛してください。本当にありがとうございます。部活動に明け暮れる毎日でしたが、その中でも特に勉強との両立が大変で、先輩や同級生には手伝ってもらうこともたくさんありました。「自分は勉強に向いていない」などと弱音を吐いたときは「テスト期間と一緒に勉強しよう」と言ってくれたり、「そんなことを言っている暇があるなら勉強しろ」とはげましてくれたり、仲間に助けられて苦手だった勉強をなんとか乗り越えて、無事にこの卒業式をみんなと迎えることができました。そして頼りなかった私たちを先輩と呼んでくれた在校生の皆さん。皆さんがかわいい後輩だったから現役の時も引退後の今も親しい仲でいることができました。在校生の皆さん、私たちの後輩でいてくれて本当にありがとうございます。また、皆さんはどんなときも一人ではありません。大勢の人に支えられていることを忘れないください。辛いときはゆっくりと一呼吸置いて、味方でいてくれる人の顔を思い浮かべてみてください。どうしても太刀打ちできない辛いときは私たちが周りの人をたくさん頼ってみてください。必ず力になりますし、なってくれると思います。

また、毎朝早くから教壇に立ち、夜遅くまで部活動や私たちのために残って寄り添ってくださいました先生方。毎日私たちの前では先生として強く丁寧に接してください、ときにはたわいのない話をして私たちを温かい気持ちにしてくださいました。私たちはそんな先生方との時間が大好きでした。先生方と過ごした時間は私たちの高校生活の思い出としてずっと残り続け、辛いときには思い出して、これから待ち受ける壁を乗り越えてゆきます。本当にありがとうございます。しました。

そして、家族に感謝の気持ちを伝えます。高校卒業という今日の日まで私たちを支え続けてくれてありがとうございます。あまり私たちの前では顔を出さなくても、私たちのことを心から自分のことのように考えてくれてありがとうございます。私たちがこの家族の一員として十八年間変わらず愛情を受けてこれたことを感謝します。必ず恩返しができる立派な人になります。どうかこれからも温かく見守り続けてください。

最後に登美ヶ丘高校に憧れ、選んでくれた当時中学校三年生の私によくやったと言ってあげたいです。この三年間私はたくさん悩んで、たくさん泣いて、たくさん笑いました。そうやって少しずつですが大人になってきました。先生の「あと一分」という声に皆で必死になって階段を駆け上がることもありません。朝家を出るときにこの校章の付いた制服のそでに腕を通すことももうありません。明日もこうして揃って、なじみのある顔の中で並んでいたいという気持ちが強くなりますが、いよいよお別れのときが近づいてきました。

登美ヶ丘高校で学んできたことや経験を糧にこれから自分たちそれぞれの進路を力強く羽ばたいていくことを約束します。三学年が登美高生としてそろうことはこれが最後になりますが、これからの登美ヶ丘高校、国際高校のさらなる発展と皆様のご健康を心よりお祈りし答辞の言葉とさせていただきます。

令和二年三月一日

卒業生代表 中川 歩乃果